



JBIC

JBIC円借款による 廃棄物分野への支援

～現状と実績：よりよい生活環境の実現にむけて～

廃棄物管理はますます重要に

人々の生活とともに発生する廃棄物は、人口の増加や経済成長とともに増加し、特に都市化の問題が著しい開発途上国では適切な処理・処分を行う必要性が高まっています。他方、途上国の廃棄物管理は、技術や資金面等の制約により整備が遅れており、現存の施設や最終処分場も満足に維持管理が行われていないのが実情です。国連で採択されたミレニアム開発目標では、目標の1つとして環境の持続可能性の確保を掲げており(目標7)、安全な飲料水へのアクセスとともにトイレの整備や廃棄物管理などによる貧困層の衛生面での改善が重要な開発指標となっています。



国際協力銀行の取り組み

国際協力銀行の円借款による廃棄物管理分野への支援は、過去20年間において23件、合計124,626百万円に上っています。円借款以外にも、提案型発掘型調査のスキームにおいて、ベトナムやモロッコなどでリサイクルシステムのあり方や廃棄物管理改善に係る調査を実施しています。本年4月に策定された本行の「海外経済協力業務実施方針」では、地球規模問題・平和構築への支援が重点分野の1つとして位置づけられており、具体的な取り組みとして「環境と開発の両立を図るため、インフラ整備に伴う環境社会面への負の影響の回避・軽減に配慮するとともに、大気汚染対策、水質汚濁対策、廃棄物管理等の環境改善・公害防止への支援も重視します」と述べています。国際協力銀行は、同方針に基づきつつ、開発途上国のニーズを踏まえながら、各国の実情にあった廃棄物事業の支援を実施していく方針です。